地域環境調整工学（第２回目）［月曜日・14:30〜16:00・14番講義室］ 2001.10.15 環境共生学部・居住環境学専攻 講師・辻原万規彦

地域の環境（枠組みの設定の試み）

１．「地域」とは？

＜『大辞林』（三省堂，1988年11月＞

１）区切られたある範囲の土地。

２）政治・経済・文化の上で，一定の特徴を持った空間の領域。全体社会の一部を構成する。

＜『広辞苑　第二版補訂版』（岩波書店，1976年12月）＞

１）土地の区域。区画された土地。

＜『建築学用語事典　第２版』（日本建築学会編，岩波書店，1999年９月）＞

１）行政界にとらわれずに，一般にはより大きく決められる区域。国土，地方，地域，都市，地区という順位で使われることもある。

２）用途地域のように，一定の法的規制を受ける土地の範囲。

３）大きさにこだわらず，共同の利害や目標をもった土地の範囲。

＜『第二版　建築用語事典』（建築用語事典編集委員会編，技報堂出版，1995年５月）＞

１）一定の特性によってその広がりの範囲を設定した土地。地区より大きいのが普通。（２）略。

２．「環境」とは？

＜『大辞林』（三省堂，1988年11月＞

１）取り囲んでいる周りの世界。人間や生物の周囲にあって，その意識や行動に何らかの作用を及ぼすもの。また，その外界の状態。

＜『広辞苑　第二版補訂版』（岩波書店，1976年12月）＞

１）めぐり囲む空間

２）四囲の外界。周囲の事物。特に，人間または生物をとりまき，それと相互作用を及ぼし合うとこ

ろの外界。自然的環境と社会的環境に分けることができる。

３．「調整」とは？

＜『大辞林』（三省堂，1988年11月＞

１）調子をととのえること。

２）ある基準に合わせてととのえること。

３）つり合いのとれた状態にすること。折り合いをつけること。

＜『広辞苑　第二版補訂版』（岩波書店，1976年12月）＞

１）調子や過不足を整えること。

４．「工学」とは？

＜『大辞林』（三省堂，1988年11月＞

１）科学技術を応用して，大規模に物品を生産するための方法を研究する学問。広義には，ある物を作り出したり，ある事を実現させたりするための方法・手段・システムなどを研究する学問。

＜『広辞苑　第二版補訂版』（岩波書店，1976年12月）＞

１）基礎科学を工業生産に応用して生産力を向上させるための応用的科学技術の総称。古くは専ら兵器の製作及び取扱いの方法を指す意味に用いたが，後，土木工学を，さらに現在の機械工学など広い範囲をも含めて称するに至った。機械工学・鉱山学・冶金学・電気工学・航空工学・応用化学工学・造船学など。

５．名称が似ている既存の学問分野

（１）地域環境工学

・定義：「自然の仕組み，社会の仕組みの理解の上に立って，人類の持続的な繁栄のために，豊かで

美しい生産・生活・自然環境の創出をめざす科学技術」（『地域環境工学』（丸山利輔他著，朝倉書店，1996年３月）より）

・対象：「（人工10万人前後の）中小都市を含む農村地域全体」（同上書より）

・環境：「あるものの四囲の状況，特に「生産環境」，「生活環境」，「自然環境」」（同上書より）

・ルーツ：農業土木学

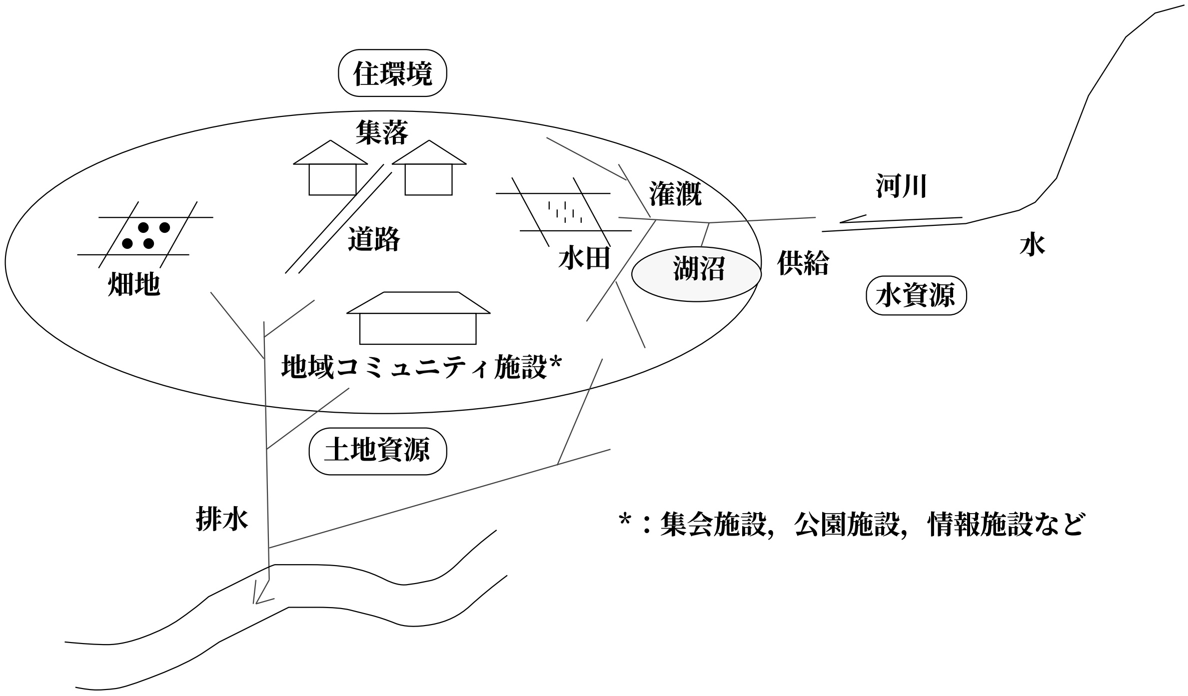

図　地域環境工学の対象（参考文献１）と２）から辻原が作成）

（２）<u>都市環境工学</u>

・定義：「都市設備計画，都市環境計画，都市エネルギー計画，環境管理などの都市の諸問題を総合的に研究する工学。」（『建築学用語事典　第２版』（日本建築学会編，岩波書店，1999年９月）より）

・都市：「地域の社会的，経済的，政治的な中心となり，第二次，第三次産業を基盤として成立した人口，施設の集中地域。行政区分上は公害を含む場合も多い。⇔農村。」（同上書より）

・都市環境：「人間生活の場の状態としての自然と社会環境に対して，人工的場である都市に注目し生活に影響を及ぼす場の状況や条件を言う。」（同上書より）

・関連分野：建築学，土木工学，衛生（環境）工学，気象学など

環境共生学部・居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

地域環境調整工学（第２回目）［月曜日・14:30～16:00・14番講義室］
2001.10.15
環境共生学部・居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

６．「地域環境調整工学」をどのように捉えるか？

次の様に，定義できるのではないだろうか？

⇒私たちの意識や行動に何らかの作用を及ぼすと同時に，私たちの意識や行動によって何らかの作用を及ぼされている，私たちや私たちの住まいをとりまくいろいろな状況を，
住宅などの建築物の内部やその近傍に注目した視点でなく，もっと大きな空間的な広がりを持った視点から，
私たちが安全に，健康に，便利に，そして快適に生活できるように，
ととのえる（コントロールする）ための応用的科学技術。

対象とする地域は，
１）都市活動が集積している地域（大都市，中小都市）
２）森林や農地などが大部分を占める地域（農山村）
３）中間に位置する地域（中小都市や農山村が混在している地域）
の３つに分けられるが，今後の講義では，社会経済活動や人口の集中により資源やエネルギーが大量に消費され，環境負荷が集中して発生し，独特の環境を形成している「１）都市活動が集積している地域の環境」について，重点的に取り扱うことにしたい。

対象とする項目は，
気候，空気，音，振動，光，水などの物理的な項目
とする。

７．参考文献（〔〕内は，熊本県立大学附属図書館所蔵情報）

１）『地域環境工学』（丸山利輔・冨田正彦・三野徹・渡辺紹裕，朝倉書店，1996年３月，\3,990，ISBN：4-254-44019-7）〔開架２，519||Ma 59，0000220150，0000244744，0000244745〕
２）『地域環境工学概論』（田渕俊雄・千賀祐太郎・山路永司・吉野邦彦・中村良太・久保成隆・中野政詞・宮崎毅・塩沢昌，文永堂出版，1994年10月，\4,200，ISBN：4-8300-4077-7）〔所蔵なし〕

3）『建築学用語事典　第２版』（日本建築学会編，岩波書店，1999年９月，＼7,140，ISBN：4-00-080094-9）〔所蔵なし〕

4）『都市環境学事典』（吉野正敏・山下脩二編，朝倉書店，1998年10月，＼16,800，ISBN：4-254-18001-2）〔参考２，518.8¦¦To 72，0000215322〕，〔開架２，518.8¦¦To 72，0000233012〕

5）『都市の風水土　都市環境学入門』（福岡義隆編著，朝倉書店，1995年４月，＼3,675，ISBN：4-254-16332-0）〔開架２，519¦¦F 82，0000220148，0000221369，0000221370〕

6）『大気圏の環境』（有田正光編著，東京電機大学出版局，2000年１月，＼2,940，ISBN：4-501-61760-8）〔所蔵なし〕

８．参考URL

http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/chiiki.html/chiiikan.html